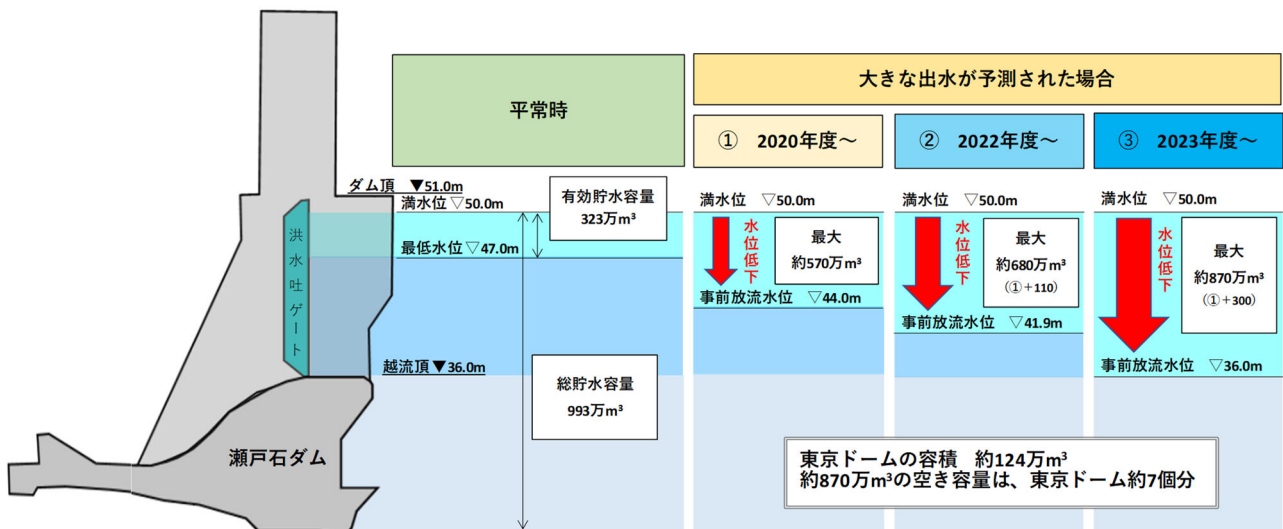


瀬戸石ダム 事前放流による水位低下



(注) 図中に記載の事前放流水位や空き容量は、最大の場合を示しており、気象予測や実際の出水状況により変更となります。

<事前放流による治水への協力実績>

年度	種別	事前放流期間	事前放流状況	最大放流量(m^3/s)※
2022	台風14号	9月17日18時～9月18日10時	到達水位 EL.41.73m (目標 EL.41.9m) 確保容量 698万 m^3 (目標 680万 m^3)	5,550 (9月19日4時30分)
2023	台風6号	8月6日6時～8月10日17時30分	到達水位 EL.36.54m (目標 EL.36.0m) 確保容量 856万 m^3 (目標 870万 m^3)	2,032 (8月10日3時30分)
2024	台風10号	8月26日16時～8月27日21時40分	到達水位 EL.36.46m (目標 EL.36.0m) 確保容量 859万 m^3 (目標 870万 m^3)	2,712 (8月29日15時50分)

※ 洪水量2,000 m^3/s 、ダム設計洪水量6,000 m^3/s

- 瀬戸石ダムでは、大きな出水が予想される場合、「球磨川水系治水協定」(2020年5月に河川管理者/ダム管理者/関係利水者の3者間で締結)に基づき、事前放流により水位を低下させることで、調整池の空き容量を確保するとともに、通砂/排砂により同容量の維持・拡大を目指す運用を実施しています(上図①と②)。

なお、2023年度より、6月から9月までの間、通砂/排砂効果の更なる拡大を目指し、事前放流を行い、最大でEL.36mまで水位を低下させる運用を実施しています(上図③)。

- 今後も事前放流による水位低下を確実に実施し、流域の安全・安心に貢献してまいります。